

●ベースカー／フェアレディZ 2023年型
 ●協力／A.BASE ☎0533-88-6900
 @ashiru_ito
 PHOTO／南井浩孝 TEXT／酒井賢次

さりげなワイドボディにねじ込む 戦うホイールその名は“ジースト”

次号で展開する「スタンスネイションジャパン2026大阪」&「X LARGE×STANCENATION JAPAN SPIN-OFF」のイベントレポートに先立ち、RZ34 フェアレディZをご紹介します。前号でもカスタムの途中経過をお伝えしたワークとワイドボディの匠としてスタンス界隈にその名を轟かすA.BASEがコラボし、大阪で初お披露目となったデモカーが履くホイールに注目だ。

ディテールチェック!

①フェイスはツーモーションのコンケープ。センターが小径なため脚長感もバツグン。②スポーク先端は極細で、その裏はアンダーカット処理。リバースリムを採用しているためフェイスのデカさが強調されるほか、リムへの映り込みも美麗。③スポークはエッジの効いたシャープな10交点メッシュ。視点を変えればV字の中をU字が走るカルテットスポークにも見えるため、直線と曲線を融合させたメカニカルなダブルフェイス風味を味わえる。



バックレーベル・ジーストビーエスティーエックス

サイズ 19、20インチ
 価格 11万50円～
 カラー プリリアントシルバーブラック、ブラッシュド
 構造 鋳造2ピース

問>> ワーク ☎06-6746-2859
 ☎048-688-7555
 ☎052-777-4512
<https://work-wheels.co.jp>

WORK BACK LABEL ZEAST BSTX

FRONT 20×10J OUT48
 REAR 20×11J OUT46

ナチュラルにワイド化されたこのRZ34はフロントが約45mm、リアが約50mmも純正から幅が広がっている。それでもノースペーサーで対応できるサイズレンジの広さがBSTXの強み。このワイドボディでもほんのリアアウトリップだ。

SNJ大阪でデモカーとして披露されたA.BASEのRZ34。ベタ落としてはなく純正の一番低いところに合わせてボディをリデザインした。エアサスはエアフォースのスーパーパフォーマンスキットで、マフラーはカキモトレーシングのクラスKR。ニスモのECUも搭載されている。



④純正形状をベースに全身へFRPワークを。フェンダーはフロントが40mmワイドの15mm上げ、リアが50mmワイドの30mm上げ。
 ⑤ノーズは前方へ約10cm延長。現代版Gノーズを創造。
 ⑥リアもワイド化。ダックテールもワンオフ。

ハイパワースポーツ車両をメインターゲットとするブランド、ジーストに対し、そのテイストを継承しながらもより履かせやすいスペックへと進化させた、いわゆるジーストの裏メニエールのブランドが、バックレーベル・ジースト。サイズの自由度が高くなった設計が特徴で、理想とするセッティングを追求しやすいのが魅力となる。だからこのワンオフで大胆にワイドボディ化されたRZ34のような車種であっても、バックレーベル・ジーストBSTXであればビタッと攻めのスタンス履きが可能なのだ。

ベースデザインはジーストSTX。シャープでシンプルな10交点メッシュなのだ。視点を変えればツインスポークふたつが融合したカルテットスポークにも見えるなど、メカニカルなダブルフェイスの一面も備える。ただしSTXがステツプリムであるのに対し、このBSTXはリバースリムを採用。フェイスがより大きく見えると同時に、極細なスポーク先端部分がリムにつかみかかっているようなアンダーカット造形と、それが映り込んだリムの美しさが際立っている。2ピース構造で多彩なアレンジを楽しめるのも大きな魅力。ミリ単位でのインセットオーダーはもちろん、色変更などのリムアレンジにも対応。フェイスはミドルコンケープとタイプブローケイブから選択できるうえ、このコンケイブはツーモーションで直線的に落とし込まれるため、迫力とキレも絶大だ。

ちなみにデモカーのRZ34に装着されているホイールサイズは、フロントが20×10J OUT48の、Oディスクで、リアは20×11J OUT46のしかも超ディープリム対応なWディスクなのだ。バックレーベル・ジーストBSTXならこんなサプライズなホイールセッティングも思いのままなのだ。